

令和6年度第2回京丹後市観光立市推進会議 会議録

- 1 開催日時 令和7年2月21日（金）午前10時30分～午前11時55分
- 2 開催場所 京丹後市峰山総合福祉センター 西館2階 コミュニティホール
- 3 出席者等 坂上英彦会長、田中智子副会長、和田正人委員、末次一子委員、丸田智代子委員、瀨口真一委員、味田佳子委員、上田美知子委員、松尾信介委員、鎌田誠委員、田矢佳子委員、伊豆田千加委員、谷口正郎委員、大亀一穂委員、秋田裕美委員、小笹俊太郎委員、桐村博明委員、亀谷義忠委員

事務局	（一社）京都府北部地域連携都市圏振興社京丹後地域本部	中山彰人事務局長
	京丹後市商工会	板倉俊明事務局長
	京丹後市商工観光部長	高橋尚義
	〃 商工観光部観光振興課	木本貴文課長、野木秀康課長補佐、橋本琢人係長、相見葉奈主事

- 4 傍聴人の数 0人

5 発言の内容（要旨）

<高橋商工観光部長>

それでは定刻となりましたので、始めさせていただきます。改めまして、おはようございます。本日は、天候が悪い中、またお忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。令和6年度第2回京丹後市観光立市推進会議を開催いたします。本日の進行を務めさせていただきます、京丹後市商工観光部長の高橋でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

会議に先立ちまして、本推進委員会の委員の委嘱を行います。昨年9月末をもちまして、全委員の任期が満了し、本日が新体制での1回目の会議となります。事務局より事前に委員就任のお願いをさせていただきましたが、皆様には快くお引き受けいただき、誠にありがとうございます。なお、時間の都合上、中山市長より代表の方にのみ委嘱通知書をお渡しさせていただきました。その他の皆様には、お手元に通知書を置かせていただいておりますので、ご確認をお願いいたします。委員を代表して、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社 京丹後地域本部 地域本部長、また京丹後市観光公社理事長である田中智子様へ委嘱状をお渡ししたいと思います。

続いて、委員の紹介をさせていただきます。本来であれば一人一人ご紹介させていただくところではございますが、お手元の名簿で代えさせていただきますことをお許しください。また、委員の任期は令和7年2月21日から令和9年2月20日までの2年間となりますので、よろしくお願い申し上げます。

次に、本日出席の皆様をご紹介させていただきます。こちら申し訳ございませんが、席次表をご確認いただきますようお願いいたします。なお、本日出席の方は、浅田様、嶋田様、加藤様、坂根様、中川様、山口様、飯島様、高尾様の合計8名で、8名の方から委任状をご提出いただいております。現在空席となっておりますが、DMOの亀谷局長が今こちらへ向かっているとのもので、少し遅れてご参加いただく予定です。

そのため、本日の出席者は委任状を含め26名となり、委員定数の半数以上を満たしておりますので、京丹後市観光立市推進条例第28条の第2項により、会議が成立していることを報告させていただきます。

それでは、新体制の会議となりますので、新たに会長、副会長の選出を行います。条例第27条に基づき、委員の互選により会長1名、副会長1名を置くこととなっております。どなたか、立候補はございませんでしょうか。

(立候補なし)

では、どのようにお決めさせていただいたらよろしいでしょうか。

(「事務局一任」の声あり)

事務局一任というご意見をいただきましたので、事務局案をご提案させていただきます。引き続き、会長は坂上先生にお願いし、副会長には田中理事長へお願いしたいと考えておりますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしということですので、会長は坂上先生に、副会長は田中理事長に引き続きお世話になりたいと存じます。では、坂上会長、田中副会長、前方の中央へ席をご移動ください。それでは、開会にあたりまして、坂上会長よりご挨拶をいただきたいと思います。

<坂上会長>

引き続き会長を務めさせていただきます坂上です。この会議は、地域の顔が見える会議であり、本当にふるさとを大切にしたいという方々の集まりだと私は常々感じております。ぜひ、皆様には円滑な会議となるよう、ご協力をお願いいたします。簡単ではございますが、私からのご挨拶とさせていただきます。

<高橋商工観光部長>

坂上会長、ありがとうございます。続きまして、中山市長からご挨拶を申し上げます。

<中山市長>

おはようございます。本日は京丹後市観光立市推進会議の第2回となりますが、このような雪の中、お集まりいただきありがとうございます。また、坂上会長、京都からお越しいただいた伊豆田様にも感謝申し上げます。御足労賜りました。

先ほど会長、副会長の選任がありました。坂上会長、田中副会長には今後ともお世話になりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。また、皆様にも大変お世話になります、引き続きよろしく願い申し上げます。

まず、冒頭私の方からご容赦、お詫びを兼ねご挨拶させていただきたいと思っておりますのは、浅茂川温泉静の里の件でございます。昨年、皆様には先進地もご視察いただき、精力的にご審議を重ねていただきました。確かな展望と、様々なご配慮もいただくような、意義の深い提言をいただきましたこと、改めて感謝を申し上げたいと思っております。本当にありがとうございます。

その後、プールの存続について、利用者の方々からの真摯なご要請が重なってきているという状況があります。また、12月市議会において存続を求める請願をいただく中で、真摯な議論も重ねていただきました。このような状況を総合的に考慮し、提言の内容はしっかり受け止めた上で、公営プールのあり方について、新年度に検討会を設けて検討を進めていく予定です。当面プールの部分の扱いについては、検討の結論を見守っていきたく思っています。ご提言をこのような形でお預かりしている現状について、ご容赦とお詫びと、お願いの思いを申し上げます。どうぞよろしくをお願いいたします。

本日は、静の里の件について事務局からの報告も予定しておりますし、第4次観光振興計画の進捗についてもご報告させていただきます。

観光においては、コロナの時期を乗り越えて、いろんなご尽力をいただきまして回復が進

んでいる状況です。令和5年度は、宿泊客数がコロナ前の93%程度にまで回復し、観光消費額はコロナ前を上回る135%に達しています。これも、皆様の懸命な努力のおかげです。年末年始においては、9連休ということもあり、宿泊客数がコロナ前の110%近くになってきています。観光を巡ってよい流れの中にあると感じています。さらにこの流れをより確かなものにしていくために、力を合わせていきたいと思っております。

令和6年度は全国51都市から選ばれた5つの美食都市のひとつに選んでいただき、これを追い風として活かしていきたいと思っております。令和7年度は、万博の開催を控えております。2年前から大阪観光局と連携しているヘルスツーリズムの取組がいよいよ本番を迎えますので、これをしっかりと捕まえて、万博に来られるお客様を京丹後に呼び込んでいきたいと思っております。

そんな中で、昨日全国一斉に発売された書籍（『奇跡の100歳長寿地域「京丹後市」の秘密』文春新書）という本を本日お配りしています。本市の出した書物を再編集していただくような形で出版していただいたものです。こちらもヘルスツーリズムの追い風にしていきたいと思っておりますので、ぜひご覧いただき、ご活用いただければと思ひ、ご紹介させていただきました。

引き続き、通年型観光やインバウンドを始めとし、観光立市として一段階レベルアップすることを目指して、皆様と力を合わせて進めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

<高橋商工観光部長>

市長、ありがとうございます。市長はこの後別の公務がございますので、ここで退席させていただきます。

本日の会議資料の確認をさせていただきます。本日配布させていただいた資料は、次第、出席者の席次表、委員名簿、資料1から5まで、そして「京丹後市観光振興条例」になります。もし配布漏れ等がありましたら、手を挙げていただければお持ちしますので、お知らせください。

それでは、会議を進めさせていただきます。条例第28条に基づきまして、ここからは坂上会長に議長をお世話になりまして、議事を進めていただきます。それでは、坂上会長よろしくお願ひ申し上げます。

<坂上会長>

議長を務めさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。会議に入る前に、会議録の確認者を指名させていただきます。桐村さんと和田さん、お願ひします。それではスムーズな進行のため、皆様のご協力をお願ひ申し上げます。

次第に基づきまして、最初の報告事項として、浅茂川温泉静の里に係る検討の経過について、事務局からご説明をお願ひします。

<木本観光振興課長>

失礼いたします。観光振興課の課長の木本と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

資料については、資料2-1および2-2をご覧ください。まず資料2-1、浅茂川温泉静の里に係る検討の経過として、9月25日に提言書を市長へ提出いただいた後のことについて、ご説明させていただきます。

その後、市では推進会議の議論や提言にもある附帯意見等を踏まえ、商工観光部、健康長寿福祉部、教育委員会による3部局会議を開催し、温泉とプールの両施設について、観光利用以外の健康増進や教育利用の観点から、方向性についてさらに検討を重ねてまいりました。

その中で、昨年11月以降、改修移転を含むプールの整備や現プールの存続を希望される要望書を2団体からいただきました。市では現利用者のスイミング継続への配慮を検討する中で、昨年12月11日から13日にかけて、現利用者へ意向等の聞き取り調査を行いました。また、年明けの1月16日には、「浅茂川温泉プール」存続の要望書の趣旨を、提出者から3部局で聞き取りを行うなどして、さらに議論を重ねてまいりました。またこの間に、「改修・移転を含めて公営プールの存続を求める陳情書」が議会へ提出され、12月議会で趣旨採択されました。

他方で、施設の指定管理期間が令和7年3月末で満了になることから、指定管理者と締結している協定書に基づき、期間満了までに施設の原状回復や市への明け渡しに係る手続き等を進めるための協議を重ねてまいりました。このような必要な手続き期間を確保するため、2月24日をもって両施設とも指定管理による営業終了とさせていただくことになりました。営業終了の周知については、市のホームページやフェイスブックを活用し、施設内にも2月3日から休館のお知らせを掲示しております。また、5日には浅茂川区連合区長会への報告を行い、さらに5日から9日には施設内に営業終了に係る問い合わせ窓口を設置し、13日14日には、営業終了に係る説明会を実施させていただきました。参加人数等はここに書いてある通りでございます。

結果として、浅茂川温泉静の里および網野温泉プールについては、3月末をもって施設の設置条例を廃止するという判断をし、2月27日開会の3月議会に条例案を提出いたしましてご審議を賜る予定としております。

また、資料2-1の2枚目をご覧くださいなのですが、浅茂川温泉静の里・網野温泉プールの廃止に伴う公営プールのあり方について、提言をいただくための検討委員会を設立するため、必要な予算を新年度一般会計予算案に計上し、この3月議会でご審議をいただくということでございます。健康増進やスポーツ利用、学校利用、観光利用など、様々な視点から検討を行うため、各分野から2名程度の委員を選出いただくということで考えております。委員の内訳は、学識経験者3名、その他の委員7名を予定しており、会議は3回開催予定、期間は約半年を見込んでおり、可能な限り早急に結論を出していきたいと考えています。

検討期間中には、現プール利用者への配慮として、デマンド型バスの実証運行を行う予定です。検討会、アンケート実施、実証運行の経費として、2,063千円を予算案に計上しています。

<坂上会長>

浅茂川温泉静の里に係る検討の経過として、提言の後の動きについてご報告をいただき、来年度の市の計画についてご説明をいただきました。ただいまの事務局の説明について、ご意見等ありますでしょうか。

<味田委員>

デマンド型運行について、利用者の利用料はかかりますか。

<木本観光振興課長>

無料で実施する予定です。

<坂上会長>

これは、どこからどこまで運行される予定でしょうか。

<木本観光振興課長>

網野から峰山の民間施設までを検討しています。

<坂上会長>

ありがとうございます。他にご意見はございますか。

この会議としては市長に提言をしておりますので、私たちの仕事は一定程度完了をしているかと思えます。ぜひ観光施設として利用したいという提言をさせていただいているところでもあります。

<高橋商工観光部長>

少し補足をさせていただきます。昨日の毎日新聞の朝刊が、少し誤解のある記事だったので、改めて説明をさせていただきます。

2月20日付の毎日新聞の朝刊で「静の里の存続、排除しない」と表題に書かれて、記事が掲載されています。前日の19日に来年度予算の記者会見がありまして、その中で市長が説明をした言葉が切り取られ、表題になっていますが、少し誤解があると思っております。

静の里の存続については、プールのあり方を検討する中で、今の施設を使って存続させるのか、公営プールとしてこの場所を新たに整備していくのか、京丹後市内どこかに公営プールを作るのか、という様々な考え方があると思っております。その中で「今の静の里をどうするんだ」という記者からの質問に、「当然今の施設を改修して使っていくという方向も、議論の中にはある」と市長が申し上げたところ、「静の里存続、排除しない」という表題で出てきたので、毎日新聞には市から少し違うという意見を言っております。記者とのやり取りの中で、少し誤解が生まれるような報道があったということをご承知おきくださいますようお願いいたします。

正確には、どのような形であれ議論検討していくということ、そこには経費がかかっていくということ、さらには運営していく中にも当然経費がかかるということから、経費の問題や本当にプールが必要かどうかという必要性なども含めて、新年度に公営プールのあり方の検討を行っていきます。ご理解をいただきますよう、よろしく申し上げます。

<坂上会長>

ありがとうございます。他ご意見ございませんでしょうか。

観光に関しては、三方よしとよく言われ、観光事業者、旅行者、地域住民が全てwin-win-winであることが望ましいと言われます。市は非常に慎重に対応されていると理解をしています。この会議としては観光的利用として結論を出していますので、今後は市全体の総合的な判断について継続して検討されるという理解をさせていただいております。

ほかにご意見がなければ次に進めさせていただきます。

それでは、主題に入ります。議事の第4次京丹後市観光振興計画の進捗について審議を行います。まず事務局から説明をお願いします。

<木本観光振興課長>

第4次京丹後市観光振興計画の進捗について、資料3、4、5を使ってご説明をさせていただきます。

まず資料4は、令和5年のKPI実績および令和6年のアクションプラン進捗管理に関する内容です。第4次観光振興計画は、令和5年度からスタートし、今年度が2年目にあたります。KPI（重要業績評価指標）の数値については、京都府等が公表する公的データを採用しており、令和6年の実績はまだまとまっていないため、今回は直近の令和5年の実績についてご紹介させていただきます。

まず、年間観光入込客数に関するデータについて、資料3も併せてご確認いただければと思います。令和5年5月に新型コロナウイルスの位置付けが5類感染症に変わったこともあり、令和5年観光入込客数は181万人に達しました。令和元年の211万人と比較して約86%まで回復してきています。内訳としては、宿泊客は94.4%、日帰り客は84.0%とそれぞれコロナ前の数値に戻ってきている状況です。しかし、宿泊客数は前年（令和4年）の35万人に対して、1万人減少し34万人となりました。全国的な傾向として、インバウンドの急激な増加や、日本人の旅行離れ等も要因の一つではないかと考えています。

次に、年間観光消費額についてですが、宿泊施設の高付加価値化の取組や、物価の高騰も影響し、観光消費額は89億円に達しました。これは令和元年の71億円の123.6%であり、コロナ前を大きく上回っている現状です。内訳としては、宿泊の消費額が74億1,900万円で148.3%（R1比）、日帰りの消費額は14億4,300万円で66.6%（R1比）となっており、宿泊客の宿泊単価が全体を引き上げている状況です。宿泊客数が伸び悩む一方で観光消費額は増加しており、施設の高付加価値化による客室単価の上昇等によって一見さんが減少したのではないかと考えています。

次に、宿泊客数の平準化率についてです。京丹後市の観光は、夏と冬に観光客が偏る二季型観光となっており、通年で観光客が訪れるような観光地を目指すことが観光振興計画の目標となっています。令和5年の平準化率は53.3%で、計画目標値である50%を超えている現状です。

資料3に記載されたその他の目標についてもご紹介いたします。令和5年の年間外国人宿泊客数は6,552人で、令和4年の2,967人から121%増加しました。また、再来訪意向率は81.4%で、前年の77.3%から4ポイント増加しました。

最後に、資料4の下段に記載されている令和6年度アクションプロジェクト進捗管理の総括についてです。第4次観光振興計画に基づいて掲げた57項目のアクションプロジェクトについて、市役所内の関係課、観光公社、観光協会などの取組状況になります。観光関係の会議等で計画の周知を図ってきたこともあり、全アクションプロジェクトの取組が進んできました。来年度は、大阪・関西万博を契機に、ヘルスツーリズムや世界長寿サミット、美食都市などの取り組みを通じて、国内外の旅行者の需要を確実に取り込みながら、観光立市の実現に向けて、引き続き一体となった取組が必要ということで総括とさせていただきます。私からの説明は以上となります。

<坂上会長>

引き続き、資料5については京丹後市観光公社の取り組みが多く掲載されていますので、中山事務局長から補足説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

<中山事務局長>

京丹後市観光公社の中山と申します。資料5について、観光公社の主な取組をご説明させていただきます。観光公社の取組に関しては、関係団体の欄に観光公社と記載されているところが該当になります。かなり数が多いため、主要な取組だけに絞ってご説明いたします。

1 ページ目の春・秋の閑散期対策として、京丹後フルーツキャンペーンを令和6年度に実施しています。京丹後を訪れる観光客を対象に、抽選で宿泊クーポンやフルーツの詰め合わせ、フルーツの割引クーポンなどをプレゼントしています。また、初夏には活イカプロモーションの取り組みとして、リクルートじゃらんさん等で広告宣伝をさせていただき、活イカプランを予約した方に宿泊時の割引クーポンを発行しました。

観光客から「ランチを食べる場所を紹介して欲しい」「日帰りでカニが食べたい」という問い合わせが多数寄せられたため、令和6年度の新たな取組として、宿泊施設や飲食店等会員

の皆様は昼食プランの提供をお願いし、観光公社のホームページ「京丹後ナビ」で販売を開始しました。この昼食プランは非常に好評で、多くのご予約をいただいています。

3 ページをご覧ください。シーカヤックや SUP などの体験コンテンツを観光公社で代理販売しています。令和 6 年度の体験コンテンツの斡旋数は過去最高を記録しており、海の体験コンテンツ以外にも陶芸教室、駒猫の絵付け体験、刀剣づくり体験など、近年は見る観光から体験型観光へ移行していることがうかがえます。

次に 4 ページをご覧ください。京丹後市内で開催される各スポーツイベントにおいて、観光公社の方で宿泊の斡旋をさせていただいています。予約フォームの準備から受付、宿泊手配まで一元管理をしており、参加者の利便性向上とともに閑散期の宿泊施設への誘導を行うことで貢献させていただいています。

次に 5 ページをご覧ください。観光公社では国内外に向けた観光プロモーション・マーケティング事業として、今年度「古墳ツアー」を実施する等、観光庁の補助金を使って様々な取組を実施しています。与謝野町を含む 3 大古墳ツアーは、京丹後まで足を運ばないと見ることができないため非常に人気があり、令和 7 年 4 月にも実施予定となっています。

6 ページをご覧ください。山陰海岸ユネスコ世界ジオパークを活用したトレッキングを推進しており、春秋の閑散期には神姫観光バスや丹海バスと連携し、多くのジオトレイルを実施しています。令和 6 年度は、京阪神方面から 600 人以上の参加者がありました。

続いて 7 ページをご覧ください。インバウンド対応として、京丹後市内の観光案内看板について、外国語対応の多言語化を進めています。QR コードを貼り、外国人観光客が QR コードを読み取ることで翻訳案内される仕組みとなっています。現在は英語、韓国語、中国語、タイ語、インドネシア語の 5 ヶ国語に対応しています。また、8 月からは日本航空（JAL）から職員を派遣していただき、但馬空港から最も近い京都、海の京都・京丹後の誘客プロモーションに着手しています。今後は JAL のダイナミックパッケージ等でのプラン出しや、観光庁の補助金を活用したプレミアムインバウンドツアーの造成も行っていく予定です。

8 ページをご覧ください。SNS を活用した誘客プロモーションにも力を入れており、観光誘客のための Google 広告を頻繁に行っています。また、Facebook や Instagram を活用して観光情報を発信しており、フォロワー数も年々増加しています。Instagram のフォロワー数は約 5,700 人、Facebook では約 4,800 人のフォロワーがいます。大阪・関西万博に向けて、商標登録もしている「Kyoto Health Resort 京丹後」、いわゆるヘルスツーリズムを売り出すため、大阪観光局の「全国巡り旅」に京丹後モデルツアーを掲載するなど、情報発信を行っています。

次に 9 ページをご覧ください。人材育成の観点から、里山文化案内人やヘルスツーリズムのアテンダント養成を行っており、観光客を受け入れるための基盤整備をしています。また、友好都市である木津川市民向けにガソリンチケットの配布や割引補助を実施し、令和 6 年度は現時点で 380 人泊の補助を行っています。ここから木津川市民のリピーターを獲得していきたいと考えています。

最後に 10 ページをご覧ください。ふるさと納税推進事業として、観光公社から宿泊クーポンとお食事クーポンを発行しています。昨年 1 月から 12 月までに宿泊クーポン発行による市へのふるさと応援寄付金は約 1 億 8,000 万円に達しました。また、宿泊クーポンの発行枚数は約 4,500 枚で、発行金額は約 5,300 万円となり、京丹後市への寄付と宿泊施設への誘客に大きく貢献させていただいています。

資料 5 の内容については以上です。次に、②「エリア別目標・地域別プロジェクト実施調書」がありますが、それぞれの実施内容については令和 6 年度の取り組みが記載されていますので、こちらは省略させていただきます。簡単な説明となりましたが、観光公社からの補足説明は以上です。

<坂上会長>

ありがとうございます。要点を絞ってご説明いただき、感謝申し上げます。

本日の議題である観光振興計画の進捗について、KPI の実績や進捗管理の状況、各プロジェクトの実施調書に基づいて説明をいただきました。ただいまの説明について、ご意見やご質問があればお伺いしたいと思います。

<上田委員>

昼食プランの提供について、飲食店の方に依頼しているということですが、これは旅館でランチを提供するということでしょうか。

<中山事務局長>

基本的には宿泊施設にお願いをしていますが、それ以外にも夜しか営業していない飲食店へ昼食プランを提供してもらうように働きかけています。今までは「宿泊しないとカニが食べられない」というのが京丹後だったのですが、最近は「日帰りでもカニが食べたい」という方がかなり多く、予約をいただいている状況です。

<谷口委員>

我々はスポーツを使って、さらに地域外から選手の合宿などを受け入れていきたいと考えております。観光公社が行っている事業の中で、スポーツに関連した課題があれば共有していただきたいです。地域を盛り上げるために、協力できることがあればしていきたいと思っています。

<中山事務局長>

観光公社でも教育旅行や臨海学校を含めて合宿の誘致にも力を入れてはいますが、近年、学生たちのアレルギーへの対応や、単価が低い教育旅行を受け入れてくれる宿泊施設が減ってきており、また、高付加価値化の中で大人数の合宿を1つの施設で受け入れることが難しくなっている状況です。そのため、複数の宿泊施設で分宿をする形で受け入れることになり、その場合金額や料理を合わせてもらうのにかなり労力を使うため、協力していただければと増やして、スポーツイベントの宿泊斡旋なども進めていきたいと考えています。

<谷口委員>

こちらとしても、会場の手配が難しかったり、単価を安く仕上げないといけないため予算の中に入らないとなかなか厳しいという現状です。サッカーやバスケットボール、陸上競技、野球などのスポーツイベントは、選手だけでなく、その家族が一緒について来られることも多いため、これを観光に繋げられる可能性は大いに考えています。地域の特産品の提供などをしようとしているので、もっと連携して地域全体の活性化に繋がるような取組を進めていければと思います。ありがとうございました。

<木本観光振興課長>

観光振興課でも、アクションプロジェクト実施調書の4ページ、21番に記載されている「スポーツ大会合宿誘致による宿泊促進」に関して、観光業等活性化推進事業補助金として、大会を開催する団体に補助金を提供しています。今後これを、合宿にも補助金を拡大する方向で進めていきたいと考えていますので、その際はぜひご相談に乗っていただければと思います。

ます。

<末次委員>

先ほどランチの件で、「カニが食べたい」というお客様が多かったとお聞きしましたが、当日にカニを食べることができるかについては、いかがでしょうか。

<中山事務局長>

基本的にカニは事前予約が必要です。京丹後市観光公社のホームページに「日帰り昼食プラン」を掲載しており、比較のお手頃な価格で提供しているところは、今週末などはすでに予約が取れないほど人気が出ています。

<末次委員>

日帰りのカニツアーは、徐々に需要が増えることによって行われてきたと思いますが、「当日でもカニが食べれるとありがたい」という声を多くいただいているため、対応できるお店も視野に入れていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

<田矢委員>

網野銚子山古墳の一般公開も控えているため、昨日の教育旅行の商談会で、古墳の情報もお話してきました。しかし、うまく他の観光コンテンツと繋げられなかったのが、古墳も含めた丹後に来ていただけるプログラムをもう少し整えていければと思っています。また、古墳に関する説明を私自身ができるように情報も集めていきたいと思いました。

<小笹委員>

近年は、日本のローカルに興味を持っているインバウンドの方が一定数多くいると実感しています。その中で、地方の独特の価値を強く打ち出すということがポイントになってきます。これに関して京丹後には様々な魅力があると思いますが、特に、「長寿」は他の地域になく差別化できて勝負できるポイントになるため、そこを武器にしながらうまく他とつなげていければと思います。

<亀谷委員>

平素より、DMの事業に格別のご協力をいただき、ありがとうございます。

DMO 地域本部としても、数値に関して情報共有を行いながら進めております。昨年、海の京都観光地域づくり戦略を見直し、数値目標を設定して取り組んでいるところです。

その中の主な取組の一つとして、インバウンドの誘客を進めており、イギリスの旅行会社から直接お客様を送っていただいている実績が、今年度は約4,800万人に達しています。その中で京丹後市では、民谷螺鈿さん、日本玄承社さん、小嶋庵さんなど、日本らしい体験事業が人気となっています。この他の体験について、我々も知らないところがあるのでご紹介いただきながら地域本部とも連携して、お客様を運んでこれたらと思っています。

また、これまで伊根と天橋立を中心に販売を行ってきましたが、今年のイギリス旅行博からは京丹後市のヘルスツーリズムも含めて、販売を全エリアに広げることができました。今後は、宿泊を含めてもう少しこちらのエリアにもお客様を運び込むことができるよう、頑張ってPRを進めています。引き続きよろしくお願ひいたします。

<和田委員>

平準化率が53.3%となったとのことですが、閑散期にスポーツイベントや教育旅行などが増えていくと、宿泊客の増加につながると考えています。宿としては、高付加価値で金額が折り合わないという点もありますが、スポーツイベントや教育旅行、フルーツトレイルなどによる盛り上がりポイントになるかなと思います。

<丸田委員>

私は小さな民宿をしております。先ほど前年の11月12月が好調との話がありましたが、今年の正月以降は宿泊者数が落ち込んでおり、特に2月は雪が多く、キャンセルが結構出てきています。昨年度は雪が少なく順調でしたが、今年は雪が多く、以前の京丹後が戻ってきたような感じがして、気を引き締めて取り組んでいかななくてはならないと感じています。

また、琴引浜の方としても、教育旅行やインバウンドについて、観光協会の方にお世話になりながら、3月から動き出す予定です。人口減少が進んでいる中で、このような活動に参加してくれる地元住民も限られてきています。その中で、琴引浜だけでなく、他のエリアと協力しないと衰退してしまう恐れがあると感じています。

年末に、シルクに関連したモニターツアーに参加し、TANGO OPEN CENTERや西陣織あさぎ美術館の見学を通じて、地元の魅力を再認識することができました。色んな観点で、地元と観光資源を組み合わせていけると思っています。

また、琴引浜の地のりは冬場に業者しか採ることができないのですが、それを冷凍して、春でも海苔すき体験ができて、それを使って巻き寿司を作るという体験ができないかと考えています。思い浮かぶことはたくさんあるのですが、なかなかできていないのが状況です。

<濱口委員>

昨年6月24日からTANGO OPEN CENTERでオープンファクトリーとして開けさせていただき、現時点で約2,500人の来場者がありました。カニのシーズンはより多くの方が来られるだろうと踏んでいたが、雪による影響でキャンセルが相次いでおります。今年は地域の事業者の方のご来場も多く、地元の方にも知っていただけているという実感があります。また、西陣織あさぎ美術館や、織元たゆう、与謝野のKUSUKA、江原産業など、オープンにしているところが増えてきたので、織物の文化を回遊して体感できる状況が生まれてきていると感じています。さらに、宮津や舞鶴のクルーズ船のお客様は文化的なことに興味があるようで、こちらにも来ていただき、文化的な体験を提供することができています。

この地域には多くのリソースがあるが、筋道にして、ストーリーにして、納得度のあるような組立がうまくできていないので、私がお説明させていただく際には、どう繋ぐかを意識しています。例えば、「何々川にはシリカが入っているから、琴引浜は鳴くんです。その水を使って～」など、地域を意識しながら自分の事業と絡めて話すことで、興味を持ってもらえるように心掛けています。地域のことを俯瞰してみて、地域の魅力をうまくしつらえて伝えられるように、それぞれの事業者さんが共通の物語として語れるものを、ある程度一定にする必要があるのではと思っています。それが伝えられたら、インバウンドの方や、高付加価値な商材に反応される方には、魅力的なのではと考えています。

<味田委員>

先日、田中副会長に紹介していただいた「ひろき/世界旅行」さんというチャンネル登録者数15万人程のYouTuberさんの京丹後に来られた動画が、すでに6万回も再生されています。その中で、網野駅を「京都最北の駅」と表現されていたところが印象的でした。私たちからしたら普通のことも、必要以上にみせるということも大切だなと思いました。

この観光振興計画の中で「ターゲットは地域資源に共感できる人たち」とあります。安い

料金の旅行客ばかり来ていただくのは少し嫌だなと思いますので、高いお金を払ってでも丹後に行きたいと思ってくれる方に来てほしいなと思います。その中で、糖尿病の食事を提供する宿を探してみたのですが、あまりないんです。ヘルスツーリズムにプラスで、病気の方でも旅行できるように腎臓食や嚥下食などがあると、本当に行きたい方にとってはすごく価値のあるものになると思います。

<松尾委員>

インバウンドに関わるところで1点。来週、観光業者の方に来ていただき、外国人のお客様にどのようなサービスを提供すべきかを相談させていただく予定です。外国人観光客の食事や生活習慣や文化、ニーズについて、こちらの理解が十分でないことを感じています。外国の方に合うものを提供したいので、どのようにしたらよいか考えているところです。

<鎌田委員>

地場産業振興センターでは、地域の地場産品を活用した新たな商品開発に取り組んでおり、地元の生産者や事業者と連携して、付加価値の向上や販路拡大を目指しています。2年前から運用を始めた京丹後市の加工支援センターを活用し、これまでに新たに50の商品が生まれました。これらの商品は、地域内の流通にとどまらず、観光客向けのお土産や特産品としても大きな可能性を秘めていると思っています。長寿食や地場産品など地域資源を活用した商品が、観光コンテンツや、地元飲食店、宿泊施設でのメニューとして活用されることで、観光客の満足度の向上や、地域経済への波及が期待されると思っています。

そこで質問なのですが、これらの取り組みをより効果的に進めるために、観光商工部局と農林部局との連携は必要不可欠だと思いますが、どのように連携強化されるのか、具体的な取組についてお伺いしたいと思います。

<木本観光振興課長>

美食都市として認定を受けたことをきっかけに、今年からさらに農林部局との連携を強めてきました。農林部局は生産の部分を担当しており、農業者向けの施策にならざるを得ない中で、観光部局としては、まずは京丹後市内での消費を促進し、域内調達率を高めることを進めていきたいと考えています。事業を一緒にするという事は、難しい部分があるのですが、気持ちを一つにしながらい進めてまいりたいと思っています。

<伊豆田委員>

私は京丹後市に移住したぐらい、京丹後市の価値を感じております。スイス村の指定管理とクラフトジンと網野の活性に力を入れてまいりますので、皆さん一緒に情報交換させてください。よろしくお願いします。

<谷口委員>

スポーツイベントを通じて地域活性化を進めていく中で、一つ課題となるのは施設の充実です。これは教育委員会や他の関係機関との調整が必要となってくると思っています。

また、スポーツのイベント時に、応援に来ている保護者の方々や選手から「どこで果物や海産物が買えるのか？」という質問を受けることがあります。大会のその場にテントがあって果物が直接販売されるということができればいいなと思いながら話を聞いていました。費用がかかることにはなりますが、販売所等の広告やマップなどがあれば、それを大会パンフレットに挟んでご案内できればなと思いました。ただ、大会施設と事業者がマッチングでき

ていない点は、課題かなと思っております。

<大亀委員>

私は日々現場にいるので、皆さんがおっしゃっている課題をひしひしと感じています。人員不足の状態で行々の業務をこなしている中で、現場としては、アクションプロジェクトを進めるために、スタッフがどれだけこの内容を把握しているかが重要だと思っています。

日々の忙しさに追われていると、自分たちが学ぶことをしなくなるのが現状で、お客様にどれだけの情報をお伝えできるかが大きな課題です。閑散期には、私たち自身が学ぶということが大切だと感じています。たんちよすのイベントにも関わらせていただいていたのですが、たんちよす自体が外への発信に変わっていく中で、私たちに関わるものがなくなり、どうしてもモチベーションが下がってきています。外向けの活動ばかりではなく、私たち観光事業者が、貪欲にスタッフ自身の成長や学びを重視することが重要だと感じています。

特に若いスタッフの学ぶ意欲が低いと感じることがあるので、スタッフのモチベーションを上げるためにはどうしたらいいだろうと日々思っています。そんな中で、KISSUIENとしては観光振興課からの補助金を活用し、ホームページの中に KISSUIEN 独自でできるアクティビティを作っています。これを通じて、お客様と接しながら学びを深めていきたいと考えています。スタッフのモチベーションや人員不足という課題についても、合わせて考えていただければと思います。

<秋田委員>

本当に多くの素晴らしい取り組みがなされていることに驚いております。

弊社の方でも、京都や大阪からの高速バスを運行しています。大阪よりも京都からのお客様が多く、マイカーで来られない方で、新幹線や遠方から来られる方に多く利用していただいています。今年の冬もカニを目当てに来られる方も多く、年間を通して丹後はすごく魅力的な地域であると、スタッフ一同強く感じております。

今回の計画を拝見しているだけでも、こんなに多くの魅力が丹後にあることがよく分かります。高速バスを利用されるお客様から、丹後の観光地や食べ物についての質問をいただくことがあるので、「丹後にはこんな食べ物や果物がある」「こんな観光地もあるよ」といった魅力を伝えられるようにしなければならないと思いました。今後も引き続き、勉強させていただきます。

<桐村委員>

第4次振興計画の進捗についてお話いただきましたが、様々な事業が着実に進んでいることを改めて実感しました。また近年、高付加価値化事業に積極的に取り組んでいただいております。年間消費額がコロナ前を超えるような良い循環が生まれていると感じています。

令和7年度について、アクションプランで大阪・関西万博を契機に、ヘルスツーリズムや世界長寿サミット、美食などの取組があるとお聞きしました。私たち振興局としても、万博をきっかけに、丹後ならではの魚介類をテーマにした観光誘客施策や、京都・大阪方面に宿泊されているお客様を丹後に誘客する施策など様々進めていく予定です。市やDMOと連携しながら進めていきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

<坂上会長>

議事の第4次観光振興計画の進捗については、この辺で締めさせていただきたいと思えます。ポイントを絞って着実に課題解決されているということが実感できました。しかし、まだまだ伸びしろがあるのではないかとこの意見も多くいただきました。独自の観光資源をテ

一マ型でつないで商品化していくという意見が多かったと感じています。また、インバウンドに関しては、一気に量を追うのではなく、質で勝負したほうが良いのではということも、皆様のご意見から感じました。

修正が必要な箇所については事務局で対応させていただきます。皆さん、この計画についてご異議はございませんでしょうか。

では、ご異議なしということで、第4次京丹後市観光振興計画の進捗についてはご承認をいただいたということにさせていただきます。

これで議事の方は終了となります。議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。

<高橋商工観光部長>

坂上会長、ありがとうございました。委員の皆様から大変参考になる貴重なご意見をたくさんいただきましたので、こちらの方で整理をさせていただき、必要があれば適宜修正も行ってみたいと思っています。では、最後に、もし言い残したことがある方がいらっしゃればご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

<田矢委員>

各地の商談会の中で、他府県では団体客を誘致するためのバス代の補助などを行っているという話がありました。京丹後市ではそのような制度がありますか。

<木本観光振興課長>

その点に関しては、確かに多くの声をいただいておりますが、現時点ではそのような制度は存在しないという状況です。

<高橋商工観光部長>

では、最後にお話しさせていただきます。来年度、4月13日から大阪で万博が開催されます。それに向けて、現在、市でもさまざまな準備を進めています。

例えば、4月からはオープンファクトリーを通年で行えるような体制を整えていく予定です。また、健康長寿に関しては「長寿世界サミット」を6月16日から4日間、丹後文化会館を中心に開催する予定です。このサミットは、基本的には、京都府立医科大学の研究者約200名が集まる会合になります。これを地域の皆さんには食で支えていただきたいと考えています。地域の長寿食や伝統食を食べていただけるように、例えば情報をマップとして提供したりして、この期間を中心に盛り上げて、それを今後も継続していきたいと思っています。

また、網野銚子山古墳が4月26日にオープニングを迎えることになっており、これによってさらに多くの方々が訪れることを期待しています。万博会場でも、京丹後市としては4回出展の機会をいただいております。7月に2回、9月に2回出展予定です。出展内容としては、オープンファクトリーや「長寿」をテーマに世界に向けて京丹後市をアピールする場を作っていきます。また、慶応大学との共同研究で「認知症相談システム」を開発しました。これも万博会場で紹介し、国内外の方々に使っていただけるようPRしていきます。

特に、京都府立医科大学が中心となって進めている「長寿」に関する取り組みは、京丹後市の特徴として世界に発信できる部分だと考えています。本日お配りした「奇跡の100歳長寿地域 京丹後市の秘密」にも記載されていますが、長寿に関する取組を強化し、来年度からさらに進めていく予定です。

皆様には、こうした取組にぜひご参加いただき、万博会場で行われるイベントにも足を運んでいただければと思います。情報提供を随時行いますので、様々な情報に触れていただく

ような機会をお作りいただきたいと思います。それでは、閉会にあたり、田中副会長から閉会のご挨拶をお願いします。

<田中副会長>

皆様、長時間にわたり、熱心な審議をありがとうございました。今日していただいた素晴らしい委員の皆さまの情報共有が、常に行われてマメに横連携の情報がいただけることで地域をより盛り上げていけるのではないかと思います。

私から、2点だけ情報をお伝えしたいと思います。私自身も地域をもっと知るために、丹海バスや丹鉄を利用して、地元をゆっくり回ったりして、地元の魅力を地元の者がもっと知るべきだと感じています。よそから来た人の方が、京丹後の素晴らしいものをよく見ておられて、先日開催された「京丹後市100人カイギ」でも移住者の方は新鮮な感覚を持っておられると感じました。

舞輪源のクラフトジンは、地域に根差したもので、ここにしかないという点で大変人気になっています。また、丹後王国ブルワリーが、麗峰という峰山の酒蔵を今しておられて、本土の方にはないような芋焼酎から、ビール、ワイン、日本酒、どぶろくなどが揃っている場所はなかなかないと中川社長がおっしゃっていました。

京丹後には、地元民が誇りを持って前に進んでいけるような材料がいっぱいあると思っていますし、素晴らしい方がお揃いなので、ぜひこの連携を密にしていきたいと思っています。我社のHPには、まちサポや語り部の会のリンクを貼らせていただいています。一人ひとりが誇りをもって前に進めたら、さらに地域を盛り上げていけるのではと、ワクワクしながら本日話を聞かせていただきました。今後ともどうぞよろしくをお願いします。

<高橋商工観光部長>

ありがとうございました。これをもちまして、令和6年度第2回京丹後市観光推進会議を終了いたします。会場が寒かったことをお詫び申し上げます。雪が降っておりますので、十分お気をつけてお帰りください。ありがとうございました。